

## 堺から熊野へ～現代社会に「癒し」の文化を～

定員50名

昨年（2024年）、世界文化遺産登録20周年を迎えた「紀伊山地の靈場と参詣道」ですが、それらのうちの熊野三山（本宮大社、那智大社、速玉大社）およびその参詣道である「熊野古道」は、いまも独特の雰囲気をもつ「癒し」の場となっています。熊野の現代的価値を読み解きつつ、一緒に旅してみませんか？

NO	日程	講座内容	講師
1	11月8日 A (土)	年間降雨量4000ml、温帯ジャングルともうべき大森林のなかを抜ける古道に「幽邃」を感じる。「癒し」における「場」の力とは。熊野の魅力を再確認し、現代社会における「癒し」の文化を展望します。	
2	11月8日 B (土)	熊野古道が世界文化遺産に指定されたのは、いまから約100年ちょっと前の南方熊楠による神社合祀反対運動があったからだといっても過言ではありません。南方の理念がどのようなものであったかを紹介します。	関西大学人間健康学部 教授 安田忠典
3	11月15日 (土)	「死出の旅路」とは何か？ 熊野比丘尼が伝えた「小栗判官物語」とは？ いまこそ、多神教的風土に育まれた豊饒な宗教観や自然観、人間観を見直し、日本文化のエッセンスを抽出してみたいと思っています。	
4	11月22日 (土)	具体的に、現代人たちが熊野で癒され、回復した事例や、知られざる名所、絶佳なる風景を紹介しながら、「癒し」における「場」の力というテーマに回帰していきます。	

講義時間：10時～11時30分 （11月8日（土）のみ1回目A：10時～11時30分 2回目B：13時～14時30分）

会場：関西大学堺キャンパス

受講料：5,000円

\*4回の講座とは別に、12月上旬に1泊2日の熊野ツアー（安田がガイドします）を実施したいと考えています。  
(参加費別途)

詳細については講義中に説明させていただきます。こちらのツアーにもぜひご参加ください。